

首領蓋將〔軍〕等、……奏破堅昆五萬人」に應ずるものと見たれども、勿論一顧の價値なし、氏は天可汗なる語を以て、唐の天子を指せるものと解釋したるを以て、斯く乾元時代の事實を此の記事に比定して疑はざるものなれども、此の語は本篇附録に論ずるが如く、保義可汗を曰へるものなれば、もとよりかゝる比定は、時代の關係上許さるべきことに非ず。

〔一四九〕 Un traité manichéen, 202. note 1.

〔一五〇〕 舊書吐蕃傳には六月と見ゆれど、五月六日に會盟したること次に見ゆるが如くなれば、六月の歸還は稍々早きに過ぐ、今通鑑に従ふ。

〔一五一〕 崇徳・昭禮・彰信等は唐より與へたる徽號にして（）内の徽號は兩唐書・唐會要・冊府元龜等に載せたるものにつき其の誤を訂正したるものなり（篇末に付せる表參看）。

特勤は諸書皆特勤に作れど、其の誤なること今更めて述ぶるの要なし。

〔一五二〕 舊唐書廻紇傳及び冊府元龜封冊篇・唐會要等皆同じ、但し舊唐書は此の月「爲登羅羽錄沒密施句主錄毗伽可汗」とのみ記して、崇徳の徽號を記さず（本紀にも見えず）、而して斯く此の可汗を冊したることを記しながら、其の下文には尙登羅骨沒密施合昆伽可汗即ち保義可汗が太和公主を迎へたることを記し、崇徳可汗の存在を全く忘れたるが如し。

〔一五三〕 舊唐書廻紇傳の記事は此の頃より後の部は特に錯誤多く、其の儘に據り得べからず。

〔一五四〕 冊府元龜通好篇にも繼襲篇とは別に「七年夏四月九姓廻紇可汗薨」とせり、恐らく舊唐書を其の儘に取りしものなるべし。

〔一五五〕 冊府元龜繼襲篇。

〔一五六〕 新唐書回鶻傳には只明年（即太和七年）とすれど、冊府元龜繼襲篇には七年四月の制を詳に載せたり。

〔一五七〕 新唐書回鶻傳には「開成四年其相掘羅勿作亂、引沙陀、共攻可汗、可汗自殺、國人立廬駮特勤爲可汗、……俄而渠長句錄莫賀、與黠戛斯、合騎十萬、攻回鶻城、殺可汗、誅掘羅勿」と見え、舊唐書廻紇傳にも、「有廻鶻相掘羅勿者、……以廬駮特勤爲可汗、有將軍句錄末賀、恨掘羅勿、走引黠戛斯、領十萬騎、破廻鶻城、殺廬駮、斬掘羅勿」と記せるが、唐會